

韓国の先祖供養

東方学院講師

釈 悟震 (文学博士)

【用語】 韓国における「先祖」という用語は「先祖」「先代」「始祖」「氏祖」「元祖」と伝統的に表している。

【意義】 先祖供養の意義は、供養という儀礼と心構えを通して「親孝行」を制度的に表すと同時に、家族や氏族間または村や街等近隣の人々との「絆」を深める儀礼の一つとして位置づけられていると同時に、社会全体を結束させる核心的な機能を果たしてきた。

【先祖供養の源】先祖供養の始まりは韓国神話の檀君神話説紀元前 2333 年からであると伝えられているが、その起源は「天神の信仰」であったと云われている。天の神つまり自然崇拝信仰の一環から発展され、一家族において最高位にある「先祖」を崇拝し「信仰化」された思想であるといえよう。つまり古代の韓国人社会において「天神の信仰」と共に最も一般化されたのが「先祖崇拝」であると同時に、その「思想」であるが、それはやがて「先祖供養及び崇拝信仰」と昇華されたとも考えられる。

このように信仰化された先祖崇拝は、イデオロギー的な意識が強い「始祖信仰」にまで発展され、今日に至るまで様々な人間模様が展開され今日の韓国人の思惟方法の一端が形成されたと思われる。

【具体的な先祖供養】①お墓参り及び管理の継承、②先祖供養の法事、③詳細な先祖代々の系図を記録した「族譜」の管理及び継承的記録などをあげることができる。

【まとめ】

- ① 韓国における先祖供養は、「天神信仰」言わば「天孫降臨」の思想から始まり、「先祖崇拝」及び「先祖信仰化」され、後孫達に「現在利益」を求めた。
- ② 先祖供養により、亡き先祖達と、その後孫たちが、死と生の世界を分離されている価値観ではなく、先祖と後孫たちが持続的な「絆」を堅く結びつけ、心の安住を得る為の手段として今を生きる生活様式として定着させている。
- ③ 先祖供養という儀礼儀式は一般民衆レベルにおいて外来宗教である仏教と融合され、仏教の最も基本的な思想である「生きとし生ける一切の命」を大切にする考え方が、そのまま定型化されたものと理解され、人々の心の絆を継承させた。
- ④ 先祖供養の一形態として、「族譜」や「墓所」の維持管理という伝統的かつ厳粛な儀礼儀式を守ることによって、「家族」及び親族または近隣住民との絆を持続的に継承させた。
- ⑤ 一方においては、あまりにも先祖供養を含む冠婚葬祭を重視する「四礼便覧」や「朱子家礼」に従った儀礼儀式の習性に縛られ虚礼虚飾に堕ちた風習も蔓延し、富める者と貧しい者との格差による素朴で真摯な先祖供養の姿とはほど遠い疲弊が拡張され、健全な国民生活振興に大きな弊害が生じ得た事も否定出来ない。
- ⑥ しかしこの問題は、時の大統領(朴正熙: 1917~1979)により「家庭儀礼準則」(1969年1月16日韓国法律第2079号)が公布され、強制的に禁止または簡素化させられた事に

よって、一応解決された。例えば、葬祭に関して、今まで「三年間喪に服す」ことを「49日か100か日、又は長くて1年で喪をあげさせる」、「冠婚葬祭の折に御祝儀や香料等を一切受け取らない」「派手な披露宴等を行わない」等々であった。これを違反した場合は罰則も付け強制的に禁じた。

- ⑦ これで当面的な問題は解消されたようであったが、「先祖供養の簡素化」あるいは「略式化」によって惹起される問題点も生じた。つまり家族間の絆または親族や近隣住民との「絆の一体感」が薄れつつある現象が生じ、現代における核家族化もこの現象に拍車をかけた。
- ⑧ しかしながら、先祖供養に関する思想は、民衆の伝統的な心境と迎合し、国の法律においても重要視されている事を窺うことが出来る。例えば仮差し押さえがあった場合、差し押さえが禁止されている物品として「位牌、遺影、墓碑、その他の葬祭などで必要な物品、族譜、先祖供養に必要な物品」(民事訴訟法 532)は如何に高価なものであっても差し押さえが禁止され先祖供養の諸般が法律においても擁護されている事が韓国人にとって先祖供養は如何に大事であるかを物語ってくれるものであろう。
- ⑨ 旧暦の正月元旦と8月15日は、先祖供養の「茶礼」及び「お墓参り」を行なう為の国民的な伝統儀礼として広く定着され、国の祭日になっており、韓国社会において先祖供養が如何に重要視されているかを意味するものといえよう。